

## オーディオ実験室収載

### デジタルアキュライザーDACU-500 の導入(5) —DSD 録音(2)—

#### 1. はじめに

前報(4)に引き続き、恒例のウィーンフィル NY コンサートの DSD 録音を実施します。

#### 2. DACU-500 の録音と試聴方法

録音ルートおよび再生ルートは前報(4)と同様です。ウィーンフィル NY コンサートの DSD 録音は、例年定点観測のように実施しており、1 年間の進展を確認する行事になっています。

昨年から変わったところは、ブルーレイレコーダーが BZT9000 から DMR UBZ1 に、DAC が SWD-DA20 から Sonica DAC になり、DACU-500、PSI-2000 などが加わっています。

録音は、DMR UBZ1→Sonica DAC→TASCAM DA3000 のルートで実施し、5.6MHzDSF のフォーマットで録音します。DA3000 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。DMR UBZ1 からの送り出しへリマスターの条件設定により 192KHz で送り出しています。

再生は、録音音源を fidata にコピーし、fidata→Sonica DAC の USB 経由での再生とします。

#### 3. DACU-500 の試聴結果

本年の指揮はリッカルド・ムーティで、ウィーンフィルから名誉団員の称号を得た数少ない指揮者の一人でウィーンフィルとの初共演から 48 年、ニューイヤーコンサートへの登場は 5 回目となります。

演奏曲目は次のとおりです。

- 喜歌劇「ジプシー男爵」より入場行進曲（ヨハン・シュトラウス 2 世）
- ワルツ「ウィーンのフレスコ画」（ヨーゼフ・シュトラウス）
- ポルカ「嫁さがし」作品 417（ヨハン・シュトラウス 2 世）
- ポルカ・シュネル「浮気心」作品 319（ヨハン・シュトラウス 2 世）
- 「マリアのワルツ」作品 212（ヨハン・シュトラウス 1 世）
- 「ウィリアム・テル・ギャロップ」作品 29b（ヨハン・シュトラウス 1 世）
- 喜歌劇「ボッカチオ」序曲（フランツ・フォン・スッペ）
- ワルツ「ミルテの花」作品 395（ヨハン・シュトラウス 2 世）

- 「シュテファニー・ガヴォット」作品 312 (アルフォンス・ツィブルカ)
  - ポルカ・シュネル「百発百中」作品 326 (ヨハン・シュトラウス 2 世)
  - ワルツ「ウィーンの森の物語」作品 325 (ヨハン・シュトラウス 2 世)
  - 祝典行進曲作品 452 (ヨハン・シュトラウス 2 世)
  - ポルカ「都会と田舎」作品 322 (ヨハン・シュトラウス 2 世)
  - 仮面舞踏会のカドリーユ作品 272 (ヨハン・シュトラウス 2 世)
  - ワルツ「南国のバラ」作品 388 (ヨハン・シュトラウス 2 世)
  - ポルカ・シュネル「短いことづて」作品 240 (ヨーゼフ・シュトラウス)
- [アンコール]
- ポルカ・シュネル「雷鳴と稻妻」作品 324 (ヨハン・シュトラウス 2 世)
  - ワルツ「美しく青きドナウ」作品 314 (ヨハン・シュトラウス 2 世)
  - ラデツキー行進曲作品 228 (ヨハン・シュトラウス 1 世)





本年録音した音源を再生し、一昨年および昨年の録音と比較してみます。演奏と録音条件の主な違いは次のとおりです。

2016年 ヤンソンス指揮 micro iDSD/BZT9000/48KHz

2017年 ドゥダメル指揮 SWD-DA20/BZT9000/48KHz

2018年 ムーティ指揮 Sonica DAC(DACU-500)/UBZ1/192KHz

さらに、今回は Sonica DAC には PSI-2000 が加わっており、DA3000への入力はアンバランス入力への RCA リベルメンテからバランス入力への XLR リベルメンテになっています。

上記の録音音源を再生してみると、一昨年、昨年、今年となるにつれて音の肌理が細かくなってきています。特に昨年の録音から今年の録音への変化は大きく、楽器の質感とステージ表現が向上しています。なお、再生時には iPurifier AC を DAC と fidata の電源タップに差し込んでみたところ、さらにグレードが上がりました。

#### 4.まとめ

昨年の録音条件からのシステムの変更により録音音源の音質向上が認められ、その一端は DACU-500 の効果と思われます。

以上